

令和5年12月大竹市議会定例会(第5回)

一般質問通告表

1.

7番 末広 天佑 議員

質問形式 一問一答

インボイス施行後の対応について

インボイス施行後すでに事務の手間が多く増えており、税理士も大きな問題としてとらえている。国も施行前から周知に力を入れているが、いまだになんのことかわからず質問をされる方も多いのが現状である。

特に一人親方の多い本市において、ほっておくことのできない問題になりつつある。そのような状況下で本市の働き手を維持するためには国の施策を待たずに自治体の状況に合わせた早めの対応が必要となる。本市の今後の方針について伺う。

- ①本市における周知の方法や実績。
- ②適格請求書発行事業者件数などの状況把握。
- ③特に一人親方の多い建設業者の状況把握や情報の周知。
- ④今後の方針。

2.

5番 岡 和明 議員

質問形式 一問一答

大竹駅伝の存続について

始まりが本市の市制施行前にさかのぼり、今年1月に第70回を迎えようとしていた大竹駅伝が突如中止され、十分な論議もないうちに廃止されかかっている問題について、この間、駅伝存続を望む市民の声を多数耳にしました。

9月定例会で一般質問し、その中で未来の本市に駅伝をつなぐために開催容易な晴海地区の新コースを提案しましたが、教育長職務代理者から交通渋滞の予想などを理由にコースとして使用しない旨の答弁がありました。

しかし、私が提案した新コースは渋滞の発生が極めて考えにくいものであり、答弁者がコースを誤認したと思わざるをえません。また、堤防上のコースに安全面の懸念があるとされたことも、現在、その堤防道路が全ての人に開放され、幼児までもが普通に利用していることを考えれば、駅伝にのみ危険であるとする主張は納得できません。

新コースについて再度丁寧に説明させていただくとともに、駅伝廃止により本市が失う文化発信手段の大きさについても認識をお尋ねします。まとめますと下記2点についてのお尋ねとなります。

- ①新コースを正確に認識していただいた上でのお考え。
- ②伝統豊かな駅伝という文化発信手段を本市が失うことについてのお考え。

3.

8番 藤川 和弘 議員

質問形式 一問一答

素通りのまちから立ち寄るまちにするために、マロンの里交流館について問う

レストラン三倉が休業してから約8カ月、進捗状況を問う。

マロンの里交流館が完成して24年、傷みも出てきていると聞いている。エアコンが壊れているとか、数カ所の雨漏り、レストラン三倉の隣にあるテラスもかなり古くなっており、車椅子の出入りも難しい。そろそろ大規模改修をする時期にきていると思うのですが、市のお考えを問う。

素通りのまちから立ち寄るまちにするために、晴海臨海公園第三期整備及び晴海臨海公園多目的グラウンドの整備について問う

8月に多目的グラウンドや球技場を利用しているスポーツ団体に対しての説明会をされているが、その内容及び市の考えを問う。

4.

3番 豊川 和也 議員

質問方式 一問一答

大竹市による選挙の投票率向上への取組みについて

前回の大竹市市議会議員選挙の投票率が43.77%、前々回の選挙が無投票に終わりました。20年前と比べ投票率の低下が目立ちます。本市におきまして将来的な投票率向上へ向けた取り組み（ショッピングセンターでの投票できる仕組み）等の考えを問います。

大竹市における施設や公園の命名権（ネーミングライツ）の活用

大竹市の総合市民会館、図書館、晴海臨海公園などの施設に企業から公募し命名権（ネーミングライツ）を導入されるお考えについて問います。

大竹市の庁舎前広場における利用について

現在の庁舎前広場におきましては市民の憩いの場ですが、利用状況などが確認されず年々寂れていく一方。このままでは整備の維持費などがかさんでいくので庁舎前広場のあり方、今後の利用方法について問います。

5.

2番 中野 友博 議員

質問方式 一問一答

大竹市公式Instagramを導入しませんか

I C T総研が発表した2022年度SNS利用動向に関する調査によると、日本のSNS利用者は8,270万人となり、国内ネットユーザー推定人数とされる10,078万人に対して80.2%になります。民間企業・個人だけではなく、地方自治体も積極的にSNSを導入し、本市でもF a c e b o o kを活用し、広く情報発信を行っています。

しかし、SNSが広く普及し、利用者も増加することで、新たな媒体が次々に生まれ、1個人が複数媒体を利用している状況となっております。F a c e b o o kにおける主なSNSの利用率を見てみると、2016年には36.2%だったのに対し、2022年には24.6%に減少しています。

そこで、大竹市まちづくり基本計画実施計画にある広報事業の取組の方針に「時代に合わ

せた効果的な情報発信を行うことで、大竹市の魅力発信と知名度の向上に取り組めます」との記載があるよう、本市でも時代に合わせた広報媒体の選定が必要だと考えます。

以上の点を踏まえ下記内容についてお伺いさせていただきます。

- ① F a c e b o o k 運用の目的、目標は何か。
- ② F a c e b o o k 投稿に関する検証・改善はどのように行われていますか。
- ③ 投稿内容に関する情報収集、各課との連携はどのように行われていますか。
- ④ 第 1 期大竹市まちづくり基本計画実施計画にある、令和 5 年度の広報事業に関する取組内容について、「新たな情報発信媒体も含めて情報発信の強化・情報の充実化・多様化を進めます」と記載がありますが、新たな情報発信媒体について、現時点での見解を教えてください。
- ⑤ F a c e b o o k と連動させることで、投稿に関する仕事量を増やさず、情報発信の強化に繋がるInstagramの導入について検討の余地はありますか。

6.

13 番 日域 究 議員

質問形式 一問一答

国土調査を成功させるために最も大切である、土地存在の確認について伺う

国土調査をして、土地と登記簿と公図が一致した素晴らしい自治体がある一方で、大竹市は、ずさんな国土調査を実施して厄介なことになったとも言えます。そもそも市民の理解ある協力なくして国土調査は出来ません。その基本は土地の現地確認と境界確定ですが、境界を決めるのは地権者の合意であって、市職員の判断ではありません。先頭に立つのは確かに市役所なのですが、あくまでも市職員は黒子です。再度の国土調査の成功を期すためにも、その基本になる土地の存在確認の手法について、大竹市公有財産管理規則も交えて伺います。

公費を投入しての、公共交通のあり方について

公共交通にはそれぞれに必然性が存在します。こいこいバスは大竹市のシンボルとしての幹線交通であり、坂上線は大竹市と岩国市美和町を連結するバス路線です。また、阿多田フェリーは離島と本土を結ぶ航路であり、これなくして島の生活は困難です。栗谷・松ケ原の山間部も市街地から離れていて一定の支援は絶対に必要。しかし、それ以外のいわゆる支線交通は、いずれも都市計画区域内であり、どちらかと言えば便利な場所。市内には同様の地域はいくらかもあり、バランスを欠いてはいませんか。

7.

6 番 小出 哲義 議員

質問形式 一問一答

空き家問題として現れる、地方都市が抱える根源的問題の解決に向けて

人口減少、少子高齢化、核家族化、地方から都市部への人口の流出、遺産相続の停滞等、空き家が増加する原因は、地方都市が抱える構造的問題と考えられ、空き家対策は単に老朽化した周囲に危険を及ぼす特定空き家の対処だけでは限界があるとの判断から、国は、空家等対策の推進に関する特別措置法を一部改正しました。空き家の利活用と管理の確保を重点課題に加えたものとなっています。また、民法や不動産登記法も改正され、国の本気度がうかがえます。そのような動きの中、大竹市も大竹市空家等対策の第 2 期計画を策定中であると思いますが、国が示す、空き家の利活用と、管理の確保を大竹市ではいかに実現していく

かを伺います。

また、空き家増加の原因の 1 つである固定資産税の住宅用地特例の、みなし延長について伺います。

8.

11 番 西村 一啓 議員

質問形式 一問一答

市内の道路網について、本市の対応や改修工事の予定や計画はどのように考えているのか。街路整備計画の今後の見込を伺う。また、現状の土木課の予算では今後の取り組みについて十分に市民の要望に応えられるのかを伺う。

市内の道路環境が整備不足との声が多く聞かれるが、次の 4 点について伺う。

①幹線道につながる支線の整備について。

②市内の道路で高齢者が通行しがたい歩道や路側帯の表示が薄く歩車区分が分かりづらい箇所の対策について。

③子どもたちの通学路に指定されている道路の安全について。

④農業用水路と道路の境界の転落防止柵が不十分であるが、その対策について。